

研究者によるベンチャー創出への新たな挑戦

研究所の成果普及と技術移転

産総研は、「ハイテクを使った急成長型ベンチャー」と「産総研でなければできない技術に移転するベンチャー」の創出と成長を支援する仕組みについて実践を基に研究してきました。

急成長型ベンチャーには産業構造変革や新産業創出が期待されています。また、計量標準や地質調査などの社会基盤研究のような分野で世界のデファクト標準となることを期待しています。

ユニークなベンチャー創出の仕組み

産総研らしいベンチャーを創出するには解決すべき課題が山積していました。最大の課題は研究者は経営や事業の経験が無いことです。技術移転は、企業として成功しなければ目的は達成できません。このために、外部の経験豊富な優秀な経営人材(アドバイザー)を雇用する仕組みを試みました。アドバイザーは、産総研職員として研究者に接し、共同して事業化にあたり、創業後は経営に参画します。研究者と経営者が各々役割を分担し、それぞれが主体的に事業化研究に取り組むユニークな仕組みが本研究の大きな成果です。また、外部の優秀な研究者を産総研職員として2年間雇用し、この間に事業化研究を行い創業する制度も同時に試みられ、この制度はカーブアウトという仕組みに発展しました。

アドバイザーの関与、実績、成果など

アドバイザーと研究者の合意が成り立つと、事業化研究(タスクフォース: TF)の審査が行われ、採択後は事業化研究費を2年間支給します。この間に研究者は試作までの問題解決に取り組む、アドバイザーは市場開拓と事業

化を行います。市場に合致した商品開発などの今まで経験したことがない事業化研究により、研究者は多くの貴重な経験を積み、新たな研究のテーマや発想を得ていきます。このようにして採択されたTFは49件あり、32件が終了し29社の新しいベンチャーが設立さ

れました。自発的に創業を目指す相談件数も累積で168件となり、研究者の意識も変わり始めています。次年度以降は毎年12社以上の創業を目指しています。

アドバイザー活躍の歴史

平成14年度

平成15年度

高村SA 榊原研究員	カーボンナノチューブによる非線形光デバイス	(株)アルネアラボトリ (2.18)
小林SA 鈴木研究員	塩基配列検出システムSNPs(遺伝子上の特定塩基配列)検出システム	(株)アッセイ (5.8)
武田SA 佐谷野研究員	書換型半導体(FPGA)応用装置	
増田SA 中村研究員	クエンチングプライマー・プローブ法遺伝子解析技術	
高村SA 山本研究員	非接触型ICカードコンタクトポイント	
高村SA 本村研究員	ベイジアンネットワーク利用高精度予測システム	
高村SA 柴田研究員	メンタルコミットロボット	
渡辺(純)SA 東海林研究員	極低温磁束計測・電圧標準	
渡辺(純)SA 町田研究員	麹菌ゲノム情報	
渡辺(純)SA 岩田研究員	パルス電圧下での免疫測定技術	
小林SA 町田研究員	進化的分子デザインによるペプチド創薬	
増田SA・藤田SA 藤沢研究員	生体組織・細胞培養による臓器・組織再生	

スタートアップ・

アドバイザー = SA

は、技術開発チームと協力し、さまざまなベンチャー創出のために活躍しています。

SAに必要な素養

タスクフォースの進捗に応じて変化していくスタートアップ・アドバイザーの役割

TFの進捗↓	タスクフォース設置	技術シーズの発掘
	インキュベーション	事業化責任者
	会社創業準備～設立	出資・経営者

キャリア・スキル

- 1 技術系の研究開発の経験があるなど特定分野の技術に詳しいこと
- 2 十分なビジネス経験を有し技術開発成果の事業化経験を有すること
- 3 国際性を有し海外展開を視野に入れたビジネスを構築できること
- 4 コーポレートベンチャーや自ら立ち上げた企業を経営するなど、数十人以上の規模の組織を自らの裁量でマネージした経験があること

取り組み姿勢

自ら創業後のハイテク・スタートアップ企業の経営に意欲があること

産総研技術移転ベンチャー等 -78社
(平成18年12月末現在)

アドバイザー数 ———— 延べ23人

研究者の兼業 ———— 69人
(平成18年4月現在)

